

ガイアの季節

第11号

医療法人 伴帥会  愛野記念病院
〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲3838-1
TEL(0957)36-0015 FAX(0957)36-1027
ホームページ <http://www.ainomhp.jp/>

緩和ケアチーム「すずらん」
「海行かば」と在宅医療～終の住処
2ページ

院内感染予防の勉強会を
実施しました!!
4ページ

診療担当医一覧
編集後記
6ページ

介護予防事業
3ページ

火災避難訓練の取り組み
5ページ

- ・介護老人保健施設「ガイアの里」
- ・愛野記念病院ケアマネジメントセンター
- ・愛の訪問看護ステーション
- ・グループホーム「椿高野」
- ・愛野健康センター

火災避難訓練を 行いました!!



基本理念

- 一. 私たちは患者様、利用者様の立場にたち、納得していただける良質な医療・介護サービスを提供します。
- 一. 私たちは保健・医療・福祉を通じて地域の皆様の安心・信頼・満足のゆく健康で豊かな生活を支援します。



緩和 ケア

今回は愛野記念病院緩和ケアチーム「すずらん」を紹介します。

当院は年間延べ約120人の患者様に対して、チームの深堀医師をはじめとした多職種でケアを行っています。



緩和ケアチームカンファランス風景

『海行かば』と在宅医療～終の住処

愛野記念病院緩和ケアチーム「すずらん」 チーフ
深堀 知宏

皆さん、『海行かば』という軍歌を聞いた事がありますか？美しくスケールが大きい情緒豊かな旋律で、第二の国歌とも言われています。NHK から依頼を受けた信時潔が作曲し、歌詞は大伴家持が記述した陸奥国出金詔書から引用されています。

「海行かば 水漬く屍 山行かば 草生す屍 大君の 辺にこそ死なめ かへり見は せじ」

現代文に直しますと、下記ようになります。

「海を行けば、水に漬かった屍となり、山を行けば、草の生す屍となって、大君のお足元にこそ死のう。後ろを振り返ることはしない」

即ち、陛下のためならどこで死んでも本望だという意味合いになるかと思えます。

さて、現代の私達日本人は、本望と思えるところで、人生の幕を下ろしているのでしょうか？ アンケート結果によれば、8割の方は住み慣れた家で、愛する家族に看取られたいと思っています。しかしながら、在宅で本望を遂げられる方はわずか2～3割です。多くの方は病院で亡くなっています。なぜ、希望通りにならないのでしょうか！

①家族に負担をかけたくないという愛情

日本経済を支えて来た団塊の世代の多くの方々は、仕事を優先するあまり家庭への配慮を置き去りにした面がありました。多くの方が都会を目指し、核家族化が進みました。家族や親戚の付き合いも希薄化しました。そのため、家庭での介護力は極端に失われ、老々介護が当たり前になっています。離れて暮らす子供たちに頼る事も出来ず、年老いた連れ合いに無理はさせられない。自分が我慢をして病院で死ねば良い…

②医療情勢の変化

30～40年前までは、開業医の先生達が往診し、最期を自宅で看取るのが当たり前でした。しかし、一部の悪徳不良医師のためマスコミによる医師への批判が非常に厳しくなった時期があり、医師優遇税制も撤廃されました。患者さん側も最先端の医療を提供する大病院指向が増えました。開業医も年を取ります。自分自身の健康管理も大変です。辛い往診を頑張るより、病院へ紹介した方が良いと思えたはずです。多くの病院もそのような患者さんを受け入れるようになりました。病院で亡くなってもらうのが、家族も開業医も楽になったのです。

ここで、問題が生まれました。医療費の著明な増加です。このままでは医療保険は確実に破綻します。北欧諸国は税金を著明に増やすことで医療福祉国家を継続する事を選択しました。日本の選択は？

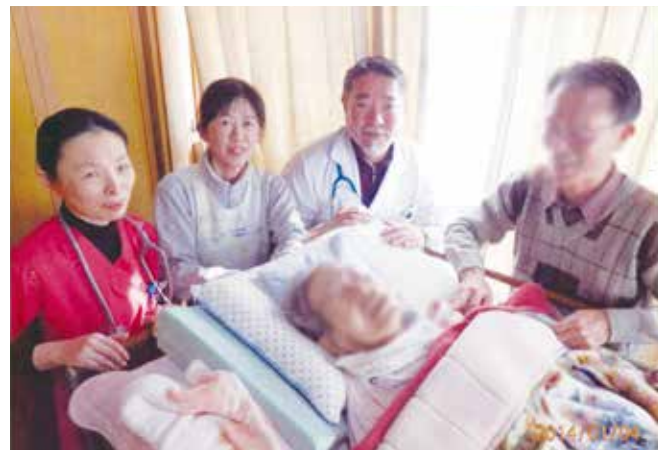
厚生労働省は、病院ベッドを削減し、介護保険を新設し、在宅医療を推進することで、医療費を抑制する事を選択しました。高齢者はドンドン増加します。病院ベッドはドンドン減少します。病院で亡くなるのも困難になって来ています。日本人の終の住処はどこになるのでしょうか？

僕は、住み慣れた自宅で、良き夫で良き父親であったと妻と子供に言われながら、孫には手足をさすってもらいながら、痛む事なく穏やかに天国へ旅立ちたい。

そのためにやらなくてはならない事は、在宅医療システムの構築と考えています。自宅（介護施設を含む）でも十分な医療や介護を受けながら、安心して逝けるようにしたい！住民や施設への教育啓蒙から訪問診療、訪問看護、訪問薬剤管理指導、訪問リハビリ、訪問介護、デイサービスとの連携、介護施設との連携、開業医の先生達との連携および緊急時の病院によるバックアップ体制の確立などなど…

実は、上記のような在宅医療システムの構築がなされていないのは、長崎県では島原半島だけなのです！

島原市出身の僕は、愛野記念病院緩和ケアチーム「すずらん」のチーフであり、また現段階では正式な行政組織ではなく準備段階ですが、多職種協働による在宅医療推進チーム「ハムスター」も結成しています。島原半島に在宅医療システムの構築をなさねばならないのです。急に出来る事ではないので、コツコツと地道に進めているところです。皆さんの御理解と御協力を宜しくお願いします。



深堀医師による往診でのひとコマ

ガイアの里では
雲仙市の高齢者
を対象に
介護予防教室を
行っています。



素敵な花束を頂きました！

本事業に関して事務次長の池永より紹介させていただきます。

介護予防 事業への取り組み

介護老人保健施設ガイアの里
事務次長 池永 孝幸

ガイアの里では、平成24年度より雲仙市が主催する一次予防事業「転倒予防教室」、島原地域広域市町村圏組合が主催する二次予防事業「通所型介護予防教室」を受託し雲仙市内の高齢者を対象とした介護予防に積極的に関わっています。

一次予防事業については、当施設の平瀬理学療法士が中心となり、各地区公民館などで転倒予防、介護予防講話等を実施。二次予防事業については、当施設の看護師、介護福祉士、理学療法士、管理栄養士の他業種協働のもと地域高齢者の介護予防に貢献しています。

また、高齢者生きがいがづくり教室、家族介護教室、介護ボランティア養成講座等の各種教室についても積極的に受託し活動を行っています。

平成25年度の参加高齢者は延べ411名となっており、雲仙市、島原地域広域市町村圏組合、雲仙市地域包括支援センターとの協力のもと引き続き取り組みを強化していきたいと考えています。

平成25年12月18日開催の二次予防事業愛野教室の最終日、参加された皆様から関わった職員に対し立派な花束を贈呈していただきました。

このような感激を忘れることなく、今後も良質な介護サービスの提供を実践していきたいと思っております。



先日、外部より講師をお招きして 感染予防の勉強会を行いました。 平成25年度 第2回 感染対策委員会研修会

院内感染勉強会感想

5階病棟 看護部 江口進

『手洗い』と言えば感染予防のための代表的な行為であるが、私たち医療従事者だけが特別に行っているというわけではなく、食事をする前に手を洗う、トイレをした後に手を洗うといったように、一般的に日常生活を送るうえで欠かすことのできないごく普通の行為である。

つまり、日頃から何気なく行っているごく普通の行為の延長線上にあるといっても過言ではないが、医療従事者として標準予防策(スタンダードプリコーション)に則って手洗いをを行い、一処置一手洗いの徹底、必要時に患者様およびその家族の方に指導・教育をしていく必要がある。

また感染は、一定の条件が整い①感染源、②宿主、③排出口、④感染経路、⑤侵入口、⑥感受性宿主が繋がることによって成立するとされているが、複数の患者様の対応をする医療従事者が手洗いを徹底することによって、『④感染経路』を遮断することとなり、感染の成立を防ぐことにつながるということになる。

今回の講義を通して、感染予防の重要性を改めて見直す良い機会となった。感染から自分の身を守ることはとても大切なことではあるが、引いては患者様を守ることもつながるため、より一層感染予防の意識を持って従事していきたいと思う。

院内感染制御講習会に参加して

薬局 大久保康彦

感染制御は、病院に求められるリスクマネジメントの1つであり、標準予防策をしっかり行うことが重要である。標準予防策の対象となるのは血液・排泄物・体液(汗を除く)と、これらに汚染された器材や創傷等でありすべてのスタッフが標準予防策を熟知し実行することに意味がある。

その中で特に手指衛生は大きな役割をする。なぜなら手指が細菌・ウイルスの媒介となるためである。「医療現場における手指衛生のためのCDCガイドライン」では、汚れがない場合は擦式アルコール製剤のみでもよいが、汚れがある場合は石鹸と流水による手洗いが必要となると報告している。細菌以外の汚れは速乾性擦式消毒剤では除去できないため、手洗いが必須となる。

ただ残念ながら、当院での擦式アルコール製剤の使用状況は不十分である。擦式アルコール製剤の使用量を増加するには、①室前に置くだけでなく、個人用の携帯製剤を導入する。②擦式アルコール製剤を使用することで生じる手荒れに対して、各病棟にハンドクリームを配置する。そしてもっとも必要なのが③講習会等を通じて各スタッフへ実践を促す。

これらを通じて、スタッフの手指衛生に対する意識を高める取り組みを、薬剤師の視点から発信していきたい。

近年、薬剤師もベッドサイドに赴き患者様と接する機会がふえている。そういった中で私達が感染源にならないために標準予防策を徹底していきたい。

擦式アルコール製剤を含めた消毒剤を適切に使用するためには、消毒剤に見識のある薬剤師とそれらを使用する医療スタッフ等が各々の視点から、消毒剤の適正使用に対して、マニュアルの作成、スタッフへの教育・実施の確認を行うことの必要性を今回の講習にて再確認した。

患者様と職員の
安全を守るために
今後もこのような
活動を行っていきます!

火災避難訓練を行いました!

愛野記念病院防火委員長 小川 康之

～火災予防及び火災による被害を軽減することを目的とし、各職員の防災意識の高揚を図ると共に職員の要望・意見を取り入れた訓練等の企画と実施～

この趣旨にて当院では新病院への移転と共に防火委員会が立ち上げられました。



火災避難訓練風景

主な活動内容

- 病院内の消化設備の確認(各フロアの消火器及び消火栓MAP作成)
- 防災避難訓練の企画・実施
- 病院内コンセントの点検、清掃運動の企画・実施
- 県央地区の初期消火操法競技大会への参加
- 防災だより発行
- 搬送方法講習会の企画 など

避難経路や患者様の状態に応じた搬送方法、部署間の連携、通報手順などを確認しながら問題点を見つけて次回へ生かすという訓練の繰り返しの意義を、参加スタッフ全員で実感しています。



火災避難訓練風景

3月末には、小浜消防署、愛野分署、(株)フジオカのご協力のもと「**スタッフ数が昼間より少なくなる真夜中**」を想定した火災避難訓練を行いました。

ここ数年医療機関や介護施設などで火災事例により大切な命が奪われています。**患者様の安全を第一に、私たちの施設を安心してご利用いただく為に**、これからも訓練や講習など活動内容を充実させ、尚一層取り組んでいきます。

診療担当医一覧

当院は、予約制となっております。予約時間までに病院にお越しください。

診療科			月	火	水	木	金	土
整形外科		午前	貝田 英二 手外科・神経	貝田 英二 手外科・神経	貝田 英二 手外科・神経	貝田 英二 手外科・神経	貝田 英二 手外科・神経	宮崎 洋一 手外科・関節・ リウマチ
			鳥越 雄史 股・膝関節・ リウマチ	宮崎 洋一 手外科・関節・ リウマチ	宮崎 洋一 手外科・関節・ リウマチ	鳥越 雄史 股・膝関節・ リウマチ	鳥越 雄史 股・膝関節・ リウマチ	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形
			坂上 秀和 肩関節・整形一般	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形	坂上 秀和 肩関節・整形一般	坂上 秀和 肩関節・整形一般	大学医師
		午後		坂上 秀和 肩関節・整形一般	泉 賢太郎 整形一般		泉 賢太郎 整形一般	
			宮崎 洋一 手外科・関節・ リウマチ	坂上 秀和 肩関節・整形一般	河合 尚志 整形一般・リハビリ	鳥越 雄史 股・膝関節・ リウマチ	河合 尚志 整形一般・リハビリ	
				富田 伸次郎 脊椎	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形	富田 伸次郎 脊椎	中村 隆幸 整形一般・脊椎・ 小児整形	
			泉 賢太郎 整形一般		泉 賢太郎 整形一般			
形成外科		午前	山中 健生		山中 健生	山中 健生	山中 健生	
内科	一般内科	午前	星野 晶子・田平 裕児	星野 晶子	曾野 弘士・丹羽 正美	曾野 弘士	曾野 弘士	曾野 弘士
		午後	田平 裕児	曾野 弘士	丹羽 正美・大学医師			
	呼吸器	午前	古賀 宏延	古賀 宏延	古賀 宏延	古賀 宏延	古賀 宏延	古賀 宏延
		午後			出川 聡	山下 広志(月2回)		
	循環器	午前	古瀬 範之	古瀬 範之	古瀬 範之	泉田 誠也	古瀬 範之・白井 和之 (第1・3)	白井 和之・川原 史生 (第1・3・5)
		午後				古瀬 範之	白井 和之 (第1・3)	
	消化器 糖尿病	午前	大塚 英司	大塚 英司	大塚 英司		大塚 英司	大塚 英司
		午後			田中 實			
	心療内科	午前		梅山 未来				
		午後			波江野 誠			
	神経内科	午前	森 正孝 (月1回)					
		午後						
外科		午前	深堀 知宏	古賀 浩孝 平野 憲二	前田 滋	古賀 浩孝 平野 憲二	深堀 知宏	平野 憲二
		午後	緩和ケア外来 深堀		NST外来 前田・曾野 痔専門外来 深堀		緩和ケア外来 深堀	
耳鼻 いんこう科		午前	藤原 久郎	藤原 久郎		藤原 久郎	藤原 久郎	大学医師
		午後	藤原 久郎	藤原 久郎		藤原 久郎	藤原 久郎	

診療時間：(月～金)午前9時～午後5時 / (土曜)午前9時～午後0時30分

休 診：(日曜・祝日 第2土曜日) ※救急の場合は時間外・休診日でも随時受け付けます。玄関は、午前7時30分に開けます。



編集 後記

新緑の美しい季節となりました。新人職員の入職や診療報酬改定などもあり、慌しく日々が過ぎていますが、皆様は新年度をどのように迎えられましたか？
過ごしやすい気候になってきましたので、少しメタボの注意信号が出そうな体を動かしていこうかと考えています。皆様は何か新しいことを始める計画がございますか？
本広報誌については、今後も当院での様々な情報を皆様にお伝えしていこうと思っておりますので、よろしくお願いします。